

# 戸田市

## 市民主体を目指した食育推進事業の取り組み ～食育教室運営スタッフによる食育活動の実践～

### (1) 戸田市の概要

#### (ア) 戸田市の基本情報

戸田市は埼玉県の南東部に位置し、面積 18.17 km<sup>2</sup>の東西に長い形をしている。北はさいたま、東は川口や蕨、西は荒川を隔てて朝霞や和光の各市、南は同じく荒川を隔てて東京都板橋区と接している。江戸時代には、中山道と荒川の交差点である戸田渡船場「戸田の渡し」が設置され商用公用で行き来する旅人などでにぎわいをみせていた。

また、首都高速 5 号線、東京外郭環状道路等の交通網が整備され、昭和 60 年に開通した JR 埼京線の駅が 3 駅あり、新宿まで約 20 分と利便性がよく、都心に近い一方、美しい緑と豊かな荒川の自然にも恵まれている。人口は 126,114 人(平成 24 年 1 月 1 日現在)であり、昭和 50 年に比べ、約 1.6 倍に増加したが、人口の流動が多く、平成 22 年の転入率は 8.8%、転出率は 7.6%であり、埼玉県の転入率 2.3%、転出率 2.1%と比べ高いという一面もある。

① 面積	18.17 km <sup>2</sup>
② 人口	126,114 人
③ ②のうち 65 歳以上人口 (再掲) ※【 】内は高齢化率	17,735 人 【 14.1% 】

(平成 24 年 1 月 1 日現在。町(丁)字別人口調査)

#### (イ) 人口分布概要と見込み

戸田市の平均年齢は 39.4 歳(平成 24 年 1 月 1 日現在)と若く、平成 22 年度に行われた国勢調査によると、高齢化率は、14.3%と県平均 20.4%と比較して低い状況である。しかし、将来推計人口によると、平成 47 年には 27.0%となり、今後急速に高齢化が進展すると予想される。

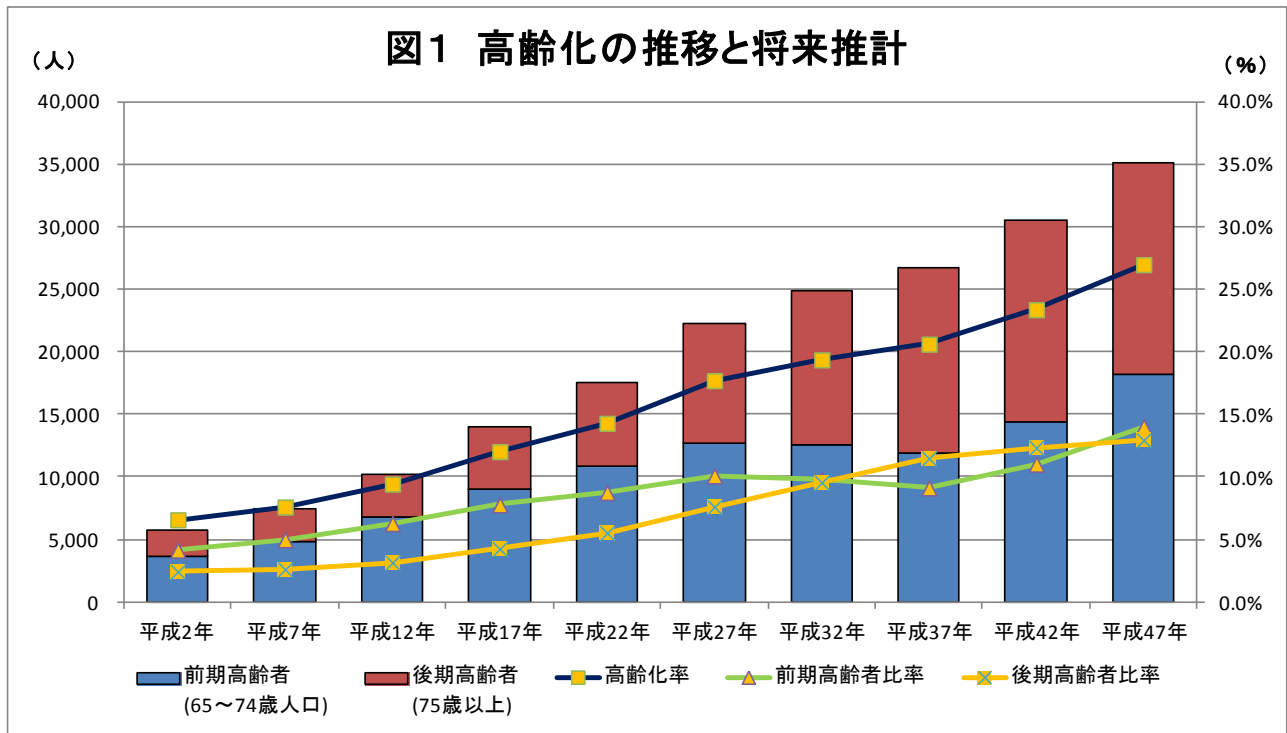
表1 高齢化の推移と将来推計人口

(人)

年	国勢調査人口					将来推計人口				
	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総人口	86,252	97,571	108,039	116,696	123,079	125,885	128,286	129,791	130,365	129,943
前期高齢者 (65～74歳人口)	3,581	4,862	6,788	9,076	10,789	12,708	12,583	11,849	14,372	18,225
後期高齢者 (75歳以上)	2,101	2,561	3,416	4,966	6,804	9,579	12,260	14,914	16,094	16,825
高齢化率	6.6%	7.6%	9.4%	12.0%	14.3%	17.7%	19.4%	20.6%	23.4%	27.0%
前期高齢者比率	4.2%	5.0%	6.3%	7.8%	8.8%	10.1%	9.8%	9.1%	11.0%	14.0%
後期高齢者比率	2.4%	2.6%	3.2%	4.3%	5.5%	7.6%	9.6%	11.5%	12.3%	12.9%

平成22年までは、国勢調査人口

平成27年以降は、『日本の市区町村別将来推計人口』(平成20年12月推計)(H17国勢調査から推計)



## (2) 戸田市の取組

### (ア) 取組の概要

「市民の健康づくり」への取組は、行政が主体ではなく、市民が主体となることが重要である。したがって、行政からの健康づくりに関する教室等において周知や助言を行うのみでは、市全体として市民の行動変容が起こることは困難である。

そこで、本市の食育推進において、最終目標である「市民が主体的に取り組む」ための第一歩として、平成23年度は、「市民が食育教室の企画・運営に取り組むこと」を目標に、活動する市民を公募し、行政と市民が協働で約半年活動を行った。

また、行政職員においては、市民が意欲的に活動できるよう支援するためのスキルを身につけるとともに、市民の活動が継続できるよう、支援の仕組みや人材の育成について検討した。

### (イ) 取組の契機

#### ① 戸田市食育推進計画の策定

食育の推進については、これまでも各課において幅広く取り組んでいたが、平成23年3月に「戸田市食育推進計画」を策定したことにより、市全体として食育推進に取り組むことを明確化した。その取組は、市民を主体とし、行政、地域、企業が協働で推進していくこととなっている。

#### ② 戸田市第4次総合振興計画のスタート

平成23年度から10か年計画としてスタートした本計画における基本計画の中で、基本目標Ⅱ「誰もが健康でいきいきと生活できるまち」を達成するための施策の1つとして、「健康づくり体制の推進」が掲げられている。主な取組に、食育の推進を含めた健康づくりに取り組む市民団体の育成や、支援体制の充実を挙げている。

## (ウ) 取組の内容

### ① 市民活動の目的の確認及びスケジュールの作成（平成 23 年 7 月～8 月）

市民活動グループを立ち上げるにあたり、会を立ち上げる目的、今年度の目標、募集方法等についてスケジュールを立て、担当課内で共通確認を行った。

その結果、今年度の市民活動の取り組み目標として、「食育に興味・関心を持つ市民とともに、教室を企画・運営すること」と決めた。

### ② 食育教室運営スタッフ（以下「スタッフ」という。）の募集（平成 23 年 10 月）

「幼児・児童の食育に興味を持つ者」と募集に条件を設け、広報紙に掲載し、電話での申し込みを受けた。

### ③ スタッフに対する説明会の実施（平成 23 年 11 月）

応募のあった 11 名に対し、2 月に実施予定の食育教室の概要、スタッフの役割等について説明を行ったところ 11 名全員が活動を希望し、スタッフとなった。スタッフは 30 歳代から 70 歳代までの女性であった。

### ④ スタッフ会議の実施（平成 23 年 11 月～平成 24 年 2 月）

スタッフ会議は月 2～3 回、計 10 回行った。

スタッフ会議では職員の助言のもと、市民がポストイット法を用いて、子どもの食についての課題や目指す姿、教室で伝えたいこと、その方法などについて検討した。

検討した結果、スタッフが食育教室を下記のように企画し、職員とともに検討し、決定した。

教室名：親子ベジタブルクッキング～子どもと一緒に簡単おにぎりを作ろう～

目的：調理実習を通して、野菜に興味をもってもらい、好きになるきっかけづくりになること

日時：平成 24 年 2 月 18 日（土） 午前 10 時から正午まで

対象者：3 歳以上の未就学児の親子 20 組

内容：①野菜に関する紙芝居とクイズ

②野菜を使った簡単おにぎりの調理実習と試食

またスタッフは、野菜に関する紙芝居班と野菜を使ったおにぎり実習班に分かれ、各自媒体づくりを行った。事前に試作やデモンストレーションを行い、タイムスケジュールを見直し、当日の役割分担表などの作成を行った。

### ⑤ 食育教室の参加者の募集（平成 24 年 1 月）

広報紙にて募集を行った。土曜日開催であり、父親の参加も可能ということで、定員の 20 組は満員となった。

## ⑥ 食育教室の実施（平成 24 年 2 月）

教室当日は 7 名のスタッフが教室を運営し、市民 18 組（うち父親参加 4 名）が参加した。

野菜に関するクイズが含まれている紙芝居では、スタッフ自ら作成した媒体を使用した。子どもたちは出題されるクイズに一生懸命答えていた。

調理実習では、スタッフは事前におにぎりの具やみそ汁を調理しておき、実習中にはアドバイザーとして、子どもたちにおにぎりの作り方を指示した。子どもたちは見よう見まねで真剣におにぎりを握っていた。

試食では、子どもたちは親と一緒に自分で作った野菜おにぎりや、かぼちゃや小松菜の入ったみそ汁を大きな口をあけて食べていた。

なお、教室を実施するにあたり、試作や、当日の教室に必要な参加者及びスタッフの食料等の材料費などで約 2 万円使用した。



## ⑦ 食育教室実施後のアンケート及びスタッフ反省会の実施（平成 24 年 2 月）

教室参加保護者及びスタッフに対しアンケートを実施した。

保護者へのアンケートでは、「自分が作ったおにぎりだと、喜んで食べていた」「緑色の野菜全般が苦手で、食わず嫌いだったが、今回のおにぎりは全部残さず食べていた」「土曜日開催だったため、父親も参加できた」など好評だった。

スタッフへのアンケートでは「子どもたちの意見を聞くことができ、達成感があった」「担当したそれぞれがきちんと当日動けていたため、スムーズに行うことができた」という一方、「教室の時間配分が難しかった。予定よりも時間が余った」という意見も出た。

## (エ) 取組の効果

### ① 市民活動の継続

スタッフとして参加した市民は、教室反省会、事後アンケートの様子から、教室という形で成果を発表できたことで、「食育」という身近な課題への取組について達成感を感じられたようだ。また、次年度以降も継続して活動したいと希望したのも 6 名おり、食育の市民活動を広めていく第一歩として、成果があったと思われる。

### ② 市民活動支援に対する職員のスキルアップ

担当職員は毎回スタッフ会議に出席した。スタッフ会議では、職員はオブザーバーに徹し、必要な場合に助言を行った。例えば教室の内容の検討において、それぞれが

「食育」に対する思いや食育教室に対するイメージはあっても、それを形にすることが困難な様子が見られた時には、具体例を用いながら助言を行った。スタッフの意見も整理され、活動を前進することができた。このような経験により、職員として市民の意見を必要に応じまとめ、確認する力や、助言する力などの支援に必要なスキルを数多く身につけることができた。

#### (オ) 成功の要因、創意工夫した点

##### ① スタッフに出来るだけ主体性を持たせて活動をすすめたこと

スタッフに食育教室の目的や目標、その方法を考え、まとめる力をつけてもらうため、進行や会議録の作成をしてもらった。この経験により、自分たちの意見をまとめる力や、次回やるべきことを明確化する力が付き、結果として魅力のある教室を運営することができたと考えられる。

##### ② スタッフ会議に担当職員が毎回参加し、必要な時に助言を行ったこと

スタッフは教室運営に関わったことがない者が多く、会議をどう進めていくか困難な様子が見られた。そこで、担当職員が毎回会議に参加することで、行き詰った時に、実際に行っている教室を例に具体的に説明をするなど必要に応じて適切な助言ができたため、教室のイメージができるようになったり、活動を円滑にすすめることができた。

#### (カ) 課題、今後の取組

##### ① スタッフの募集人数の設定について

当初 11 名で活動をしていたが、家庭の事情等で 4 名途中辞退をした。残った 7 名で活動を行ったが、様々な事情により、継続参加をしたくても困難な場合がある。今後同様のことが予想されるため、途中辞退等のことも考慮し、募集人数については考慮することが必要だと考えられる。

##### ② 「やる気」「熱意」などモチベーションを継続させること

スタッフの自主的な活動であり、始まったばかりの取組であるためスタッフが入れ替わりながらも活動を続けていくことが課題である。そのためには、職員が必要に応じて助言やサポートを行うことと、勉強会やイベントを通じて「もっと学びたい」「情報を発信したい」という体験をしてもらうことが大切だと感じている。

##### ③ スタッフの活動の幅を広げること

平成 23 年度は、市民が主体的に参加して「楽しい」「おもしろい」と感じられるよう食育推進活動に取り組むための第一歩として、幼児・児童向けの食育教室の企画と運営を目標に、市民の取組を支援した。

次年度においては、前年度の内容をより前進させ、戸田市食育推進計画の目標指標を基に、市民自らが取組目標を決め、企画、運営ができるよう、支援していく予定である。